

■ 能登半島震災への支援活動を！

新しい年を迎え「本年もよろしく」とご挨拶申し上げますが、めでたい挨拶もはばかりられる事態が起きました。

新年早々での能登半島の地震、現地での最高震度7、名古屋でも震度4の揺れでした。

新建築全国事務局では、緊急復興支援会議が直ちに立ち上がり、北陸の会員との連絡を取り合い、皆さんの安否確認と被害の状況把握が行なわれていました。それによると、会員の皆さんはご無事のように、それぞれ周辺の建物被害などの様子を伝えていただき、情報交流が行われています。

今回の地震被害は東日本震災や熊本地震と違い、災害救助支援の動きが遅いように感じられた。半島という地勢的な問題もあり、被災地にアクセスできる道路が限られているのですが、それにしても国の動きが鈍いように思います。国は海外からの救助支援を現地アクセスが悪いからと断ってようですが、このエリアにある「原発」も被害を受けていて、なにやら知られたくないことがあるのではと勘ぐってしまいます。

会員からの報告を見ますと、やはりインフラの被害が甚大で、水が使えなくそのことにより衛生管理もできないような様子です。インフラの整備には相当な時間が必要とのこと、避難生活の長期化が懸念されます。

富山の会員から写真付きのレポートが全国事務局からのメールで届きました。その写真の一部を下記に載せさせていただきます。レポートでは、地盤の液状化による被害が大きいとのことでした。

今回の地震では、地盤の激しい隆起や液状化がいたるところで見られ、道路に大きな亀裂が入り通行不能になるなど、地盤変動による被害が激しいのが特徴として見受けられる。これが耐震性を持った建物へどれほどの影響を与えたかの現地調査を行いたいものである。

次の復旧として仮設住宅建設があるが、報道を見ていると現地に仮設住宅を立てる「平地」が少ないようで、必要数が確保できなく、遠方での生活を余儀なくされるとの不安の声もあり、仮設住宅に係る東日本震災での教訓を生かして欲しいものである。

愛知支部としても、東海・北陸ブロックとして被災地支援を行いますが、被災の状況を見極めた上での現地支援を予定しています。それまでは被災地へ支援金で応援していきたいと思しますので、全国新建築の支援金口座を記します。

みずほ銀行 新宿新都心支店 店番号 209 口座番号 普通 3914020

口座名 新建築家技術者集団 シンケンチクカギジユツシヤシユウダン



(福田 啓次)

■ 「戦争・災害と居住福祉」～居住福祉と生活資本の構築(160)

岡本 祥浩

2024年、その幕開けは能登半島地震(1月1日)と羽田空港での航空機事故(1月2日)である。思い返せば、2023年は観測史上最も高い気温を記録している。地球温暖化の影響を受けて世界中で気象災害が多発している。更に近年の世界各地で起こる紛争や戦争が激しさを増している。私たちの居住環境が地球環境や政治環境の悪化の影響を受けて劣化している。国連難民高等弁務官事務所によると全世界で安全安心できる住居を確保できず、避難している人々が1億人を超えている。2024年の年頭に改めて、居住福祉の基盤である適切な居住を世界中で失う危機感を覚える。

ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナの軍事行動に世界中から「戦争反対」「即時停戦」の声が上がる。その一方で、当事者からは自分たちの正当性と敵対者への非難が主張される。僧侶・アナウンサーの川村妙慶氏は「戦争は善と善とのぶつかり合い」なのだと解釈する(NHK「こころの時代 凡夫のまま輝く」(2024.1.7))。だから一般論としての戦争には反対するが、当事者になると正義としての戦争に加担してしまう、という。

この際、戦争の意義や意味など二の次である。とにかく軍事行動は都市、街、村、住宅を壊し、人を殺戮する。それだけで「軍事行動」に反対する理由である。パレスチナ自治区ガザではイスラエル軍とイスラム組織ハマスとの衝突から3ヶ月で約23,000人が亡くなった。街や住宅や病院までも壊された。居住の基盤が失われ、居住と人権が侵害されている。もう、十分だ。軍事行動は何があっても実施してはならない。「正義」の議論は、軍事行動を排除した土俵で戦わせなければならない。

他方、日本では能登半島地震も人々から居住を奪った。災害は継続、拡大中であり、全体像の把握には時間がかかりそうである。1月13日の段階で、亡くなった方は220人を超え、1,900人以上が孤立しているとみられる。22,000人以上が避難所で過ごされている。道路、電気、水道などの生活インフラが寸断され、衛生環境の悪化と日常生活物資の不足が深刻である。こうした状況下で、高齢者、障害者、女性、妊婦、乳幼児、アレルギーや持病など疾患を抱えた人々への影響と災害関連死の増加が心配されている。幸いにも近隣県市町のみならず全国的な広域避難が動き出した。

これからの災害復興支援策には新たな観点が必要である。これまでの多くの施策は、人口構造が若く経済成長が見込まれることを前提に組み立てられている。被災した緊急事態のみ支援すれば、一部分を支援すれば、いずれ自立生活が実現する、と言う暗黙の前提である。高齢社会、単身世帯に代表される現在社会を見ると、被災地の居住環境がいずれ回復するとは思われない。意識的に一人ひとりの居住の実現を考えなければならない。長期的な避難・復旧・復興生活を覚悟しなければならず、地域と高齢単身者の生活像を創造しなければならない。地域社会のつながりの上に築かれてきた一人ひとりの生活は、新たなつながり無くしては成立しない。

一人ひとりの居住が途切れることのないように支援を提供しなければならないが、それには居住支援(公的住宅などの提供)に期限を設けず、支援を必要とする被災者すべてに(仮設住宅や復興住宅の建設に制限を設けない)、そして地域に新たに積極的なつながりを構築することで、被災者の適切な居住と地域社会を実現してほしい。また、必要であれば避難居住や復興居住を生活条件の変化に合わせて何度でも実施できるようにしてほしい。居住とは、住宅だけではなくそこで生活が実現することが肝心である。その居住の実現を基本にする観点が、居住福祉の復旧復興支援である。

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ 33 緑区

宇治の万福寺の総門を模した 瑞泉寺山門

緑区鳴海町にある瑞泉寺は、旧東海道鳴海の宿の東端、扇川畔の高台にあります。

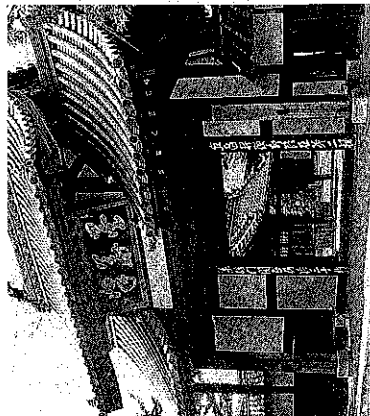
この寺は応永11年(1404)に創建されました。もともと、平部山(現諏訪山)の地にあったものを、兵火のため、伽藍を焼失したため、文亀元年(1501)現在地に移転したと云われています。創建時は瑞松寺と名付けられていましたが、度重なる火災のため松を祥に変え、その後正徳3年(1713)瑞泉寺と改め現在

に至っています。元文4年(1739)の火災によって、諸堂を失いましたが、時の吞舟(どんしゅう)和尚によって、伽藍が復興され、宝暦6年(1756)に仏殿・山門などの堂が完成しました。

現在見る山門はこの時のものです。当時の建物で現存するものは、法堂・山門及び鐘楼で、庫裡は文化年間、僧堂は慶応3年(1867)の再建です。山門は京都・宇治にある黄檗宗の寺院・万福寺の総門にならって建てられ切妻屋根の中央部が上方に突き上がった中国風の門の形式をとっており、全国的に珍しい形式となっています。このため、昭和32年(1957)愛知県の文化財に指定されました。鳴海町にある多くの寺院のなかでも、きわだった存在となっています。



尾張名所図会に描かれた瑞泉寺



瑞泉寺山門

■ 新建愛知支部 2023年12月 支部幹事会だより

12月20日(水) 19:00~21:00 (オンライン)

リモート参加者/入谷、奥野、黒野、中森、福田、甫立

- (1) 11/25(土) 第34回新建全国大会がオンラインで開催されて、大会の報告をしました。
 - (2) 12/2(土) 支部企画(彦根セミナー報告)を金山会所で行い、その後、外部で忘年会をしました。
 - (3) 来年は、集まれる企画をみんなで考え、顔を見て交流のできる支部にしようと話しました。
 - (4) 支部の皆さまから、企画を募集しまして、楽しめる学べる企画や見学会の開催や提案します。
 - (5) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織化検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
 - (6) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
 - (7) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
- 今後の幹事会は、2024年1月17日(水) 2月21日(水) 3月20日(祝) 午後7時と決めました。



■ VRでよみがえるガウディ ～サグラダ・ファミリアの秘密～

NHKは、フランスの制作者と共にガウディが晩年過ごした工房を写真など現存する資料をもとに忠実に再現した4K画質のVR(バーチャル・リアリティ)を国際共同制作しました。ガウディがサグラダ・ファミリアに託した思いは何だったのか、また彼のインスピレーションの源とは? ガウディ建築の秘密に迫ります。

会 期:2024年1月11日(木)~2月12日(月・振休) 午前10時~午後6時(最終入場は午後5時25分)

会 場:NHK名古屋放送センタービルB1(地下鉄「栄」駅下車、オアシス経由徒歩5分)

内 容:ヘッドセットを装着すると、時は1926年、ガウディの工房へタイムスリップします。そこでは病床のガウディがこれまで手掛けてきた世界遺産の建築秘話などを語りかけてきます。そして、未完の塔サグラダ・ファミリアを完成して欲しいとガウディから依頼を受けることに…。およそ15分間の4K画質のVRを通じて、時空を超えたスペシャルな体験をお楽しみいただけます。

※上記案内は、NHK名古屋放送センターHPから抜粋。詳細は、NHK名古屋放送局HPでご確認ください。

■ 東京支部「ホワイエ」 2024年1月号 読者からのご案内 から転載

建築家・吉村順三の眼 ―アメリカと日本―

2023年12月22日(金)~2024年3月28日(木)

開館時間:10:00~18:00(土曜、最終日は17:00まで) 休館日:日曜日・祝日 入場無料

会 場:ギャラリーエークウッド(東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本社1F)

231225 地下鉄東西線東陽町駅近くにある竹中工務店へ行き、ギャラリーエークウッドで、吉村順三展を観てきました。

戦前・戦後を通じてアントニン・レーモンドと交流のあった同氏の跡をたどっています。

平日のみ開催ですが、3月までやっていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか!

(株)まちづくり研究所 野口哲夫